

朝日新聞ジュニアプレス埼玉5月号【5月21日(日)】に

マルケス ペドロ校長先生の取材記事が掲載されましたのでお知らせ申し上げます。

8

朝日新聞 ジュニアプレス埼玉

2023年5月号

教育

【インタビュー】

4月に西武文理大助教から西武学園文理中学・高校の校長に就任したマルケスペドロ先生(37)。埼玉県私立校で初となる日本国籍の外国人校長は「日本のホスピタリティを世界に発信できる人材を輩出したい」と語ります。故郷ブラジルと日本を愛する国際人が目指す、現代の学校像とは。

日本語学校とサンパウロ大で学ぶ

—これまでの歩みをお聞かせください。
ブラジル・サンパウロ州の小さな町が生まれ故郷です。母はイタリア人の移民2世で、父はブラジルの浄水事業に携わるアメリカ人研究者でした。複数言語だった家族背景もあって、自然と将来は海外とつながる仕事に就きたいと思っていました。

日本人の男の子と仲良くなり、日本語を学びはじめました。最初は漢字の格好良さに惹かれましたが、次第に日本の歴史や文学が大好きになり、サンパウロ大学での日本文学専攻につながります。高校時代は放課後に日本語学校にも通っていました。当時の日本語学校は日系人の子の継承語教育のためのもので、日系人でない生徒は私一人だけでした。

—なぜ、日本で先生に？

16歳からサンパウロの語学スクールでブラジル人に英語を教えるアルバイトをしていた経験と、サンパウロ大学で私の指導教員になる松原礼子先生(現サンパウロ人文科学研究所理事長)との出会いが大きい。当時、松原先生は上田秋成の「雨月物語」のポルトガル語翻訳をしていて、私も江戸時代に出版されたその怪異小説の翻訳プロジェクトに参加。翻訳プロセスは私の卒業論文にもなりました。

英語嫌いな生徒をその気にさせる環境

—サンパウロ大卒業後、2010年に奨学金制度を使って国費留学生として早稲田大学院日本語教育研究科へ。そして西武文理大学で教鞭を執ることになった。

西武文理大学サービス経営学部で、最初は留学生担当の日本語の先生として雇われ

学びを楽しむ環境 作りたい

マルケス ペドロ 西武学園文理 中学・高校 校長



第4代校長
マルケス ペドロ
1985年、ブラジルサンパウロ州生まれ。サンパウロ大学→早稲田大学院日本語教育研究科卒。2022年まで西武文理大サービス経営学部助教。23年4月より現職。高校時代はバスケットボール部で、日本に来てからはスケートボードが趣味に。

ました。2年目からは英語担当にもなりました。進学校の本校(西武学園文理中高)はトラディショナルな学問を重んじていましたが、大学はイベントラーニングのコースが人気の実学的な学校です。大学の生徒の多くは英語ができません。英語を話すことに対して苦手意識を持っている生徒が多い。彼らは、教科書主体の授業では全然のってきません。私が最初の授業で必ず話したのは「とりあえず英語に触れてみよう。文法やアクセントは気にしないでいいから」ということ。授業で大事にしたことは二つです。一つは「英語=楽しい」と感じてもらえるような場をすること。もう一つは、ネットの翻訳アプリなどの使用をすべて認めることでした。私の友人の外国人と教室で触れあってもらったり、外国人ユーチューバーとコメント欄でやりとりしたりして、英語が怖いものではないと知ってもらうことからスタートします。2年時からは、仮想会社のロールプレイングを通じて、私がメールで指示する高度なビジネス英語に向き合ってもらいました。回答にはどんなアプリを使ってもかまいません。すると、どんどん自学する生徒が増えていき、卒業時には英語を職に使える人、英語を話せるようになった人も出てくるようになりました。

語学に関しては、教える授業が良い授業ではありません。語学に対する自らの気持ちが生まれないとだめですから。先生の役割は機会=場を作り、モニタリングしていくことが大切と言えます。この8年間の

授業経験は私のコア。本校の校長職でも、同じような教育観念で臨みます。

普通科に新クラス開設

—学校にどのような環境を作り出しますか？
西武学園文理中高は教育の変化に敏感な学校です。大学進学に力を入れることは変わりませんが、同時に海外の名門高と同じように国際舞台で戦える人材を育てることを掲げています。現在日本では(かねてからあった)“探究学習”という、自分自身で問いに向き合い問題解決していく力を高める学習が進められていますが、これは海外の学校の流れと同じで、ペーパーテストで測れない(思いやりやコミュニケーション力、集中力といった)非認知能力を高めていく教育です。大学が求める人物かどうかを測るAO入試(アドミッションズ・オフィス入試)で評価する要素でもあり、導入する国公立・私立大は増えています。その上で私は新たな取り組みとして、通常の学問知識を測る進学コースとは別の、総合クラスを作りたいと考えています。スポーツ、文学、音楽、芸術など、子どもの得意を通して全人的な能力を伸ばしていくクラスです。

探究学習もどんどん増やしていきますよ。新しい総合クラスでは幅広くできると思う。昨年、本校がテレビドラマのロケ地になった際、生徒とキャスト含めたスタッフさんたちとの交流機会が生まれました。普段の授業では学ぶことができない貴重な

体験になったと聞いています。このような、大人の仕事に参画できる機会をどんどん増やしていきたい。例えば生徒が企業・デザイナーと一緒に制服を作るプログラムや、生徒主体で各界の著名人を招いて議論し発信するポッドキャストなんかも良い。大事なのは生徒が失敗を恐れずに取り組めるよう、「先生がちゃんと見守ってくれる」という安心できる環境を作ることだと思います。

AI時代に向けて「拒否でなく活用を」

—教育の潮流を超えて、社会の変化は目まぐるしいです。ネット上で答えを生成してくれる高度なAIも騒がれています。

本校の校訓の「誠実・信頼・奉仕」は、日本が世界から称賛されるホスピタリティそのものです。いくらテクノロジーが進化しても、相手を尊重し、関係づくりをする力が不要になることはありません。日本の魅力を世界に発信できる人を育てることが、本校の目標。その上で今後、生成AIなどの新しい技術をどう活かすことができるのか、学内外で議論を続けていかねばなりません。生成AIは利用にあたって法整備が進むことがあっても、携帯電話と同じように社会に浸透していくことでしょう。ならば学校の役割は、そんな社会で活躍できるようスキルを身に付けさせること。インプット型の授業はアプリでできると、今の子どもたちはすでに知っています。彼ら彼女らが求めているのは議論の場であったり、実際の体験であったりします。

—国際人として思うことは？

本校には、日本に留めておくにはもったいないくらい英語が上手な生徒が多くいます。だから留学生の受け入れと送り出しを増やし、海外への大学進学者も増やしていきたい。留学生が増えることは、学内の生徒にとっても国際経験と自己表現の場が増えることにつながりますから。

グローバル化する社会を生きる子どもたちの力を、大人はなめてはいけません。人間の適応力って凄いなと思うのです。色んな子どもたちが前を向いて楽しく過ごせる環境作りが、今の私の仕事です。

(聞き手と構成・橋上賢太)

写真のお求めはASA公式サイト「いい朝ドットコム」へ

掲載写真はASA公式サイト「いい朝ドットコム」から購入できます。また掲載外の写真は右のQRよりご覧いただけます。パスワード(jp202305)を入力ください。



いい朝ドットコム

広告のご用命はTEL 048-780-2471

制作発行 朝日サポートセンター埼玉

定価：200円(税込) 朝日新聞販売店で購入できます。

弊紙についてのお問い合わせ・ご感想は編集局まで。
編集人：橋上賢太 編集局：朝日スポーツネット
〒330-0845 埼玉県さいたま市大宮区仲町3-91-102
TEL 048-788-3277 FAX 048-788-3273
E-mail: saitama@asahi-asn.co.jp

なお、こちらの本ページでご紹介している記事は朝日新聞ジュニアプレス埼玉の許可なく無断転載することをお断り致します。